



12月4日(水)から10日(火)までの1週間は、人権週間です。世界人権宣言の採択を記念して、日本では12月10日を最終日とする1週間を人権週間と定め、世界人権宣言の趣旨及びその重要性を広く国民に訴えかけるとともに、人権尊重思想の普及高揚に努めています。世界人権宣言は、1948年(昭和23年)12月10日の国連総会で採択されたもので、「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利について平等であること」などが示されています。



「権利」は英語で「right」です。では、「人権」は英語でどうあらわしますか？

答えは「human rights」です。

みなさん気がついたと思いますが、権利=rightが複数形rightsになっていますね。そう人権はこれという1つの権利ではなく、さまざまな権利が折り重なり、つながって成り立っているものであり、だからこそ「人間が生まれながらに持っているあたりまえの権利」なのです。

毎年、人権週間のころになると思い出すことがあります。みなさんにも紹介したいと思います。ある学校での体育大会のバレーボールでの一場面です。もう何年も前の話です。でもとても心に残る印象的な場面です。

Aさんのチームは1位になれませんでした。Aさんのチームにはバレーボールが苦手なBさんがいました。Aさんは、1位になれなかったことが悔しかったのか「Bのせいで負けた」とみんなに聞えるような声で言っていたそうです。Bさんは、一所懸命練習しても、サーブが相手コートまで届かないことを自分でもわかっています。Aさんの言葉が聞こえてきて、Bさんはとても悲しい顔をしていました。Aさんのように、負けて悔しいという気持ちが起こることは、ありえることです。優勝できなくて悔しいAさんの気持ちも理解できます。しかし、その心の声を、相手に直接的・間接的にぶつける行動(SNSに書き込むなども同様)は、決して恰好のよい行動とは言えないと思います。その言葉でBさんが傷ついたら、これはれっきとした「いじめ」です。

同じチームのCさんが負けたことをBさんのせいにしたAさんに向かって、「Bさんの分も、自分たちももっとカバーすればいいでしょ。」といいました。

Aさんはこの後、何も言えなかったそうです。人には、得意なこと、苦手なことは必ずあります。それを責めても仕方がありません。Aさんのような行動をとっている人を見かけたら、みなさんはどうしますか？この時は、このCさんの一言が、いじめの拡散にブレーキをかけたと言っていいでしょう。もしCさんが、「そうだ、そうだ」とAさんの言葉に、のっていたら、さらにいじめは、広がっていったことでしょう。いじめの芽に気付いたら、「それは言い過ぎだよ。」とか「そのくらいにしておきなよ。」とブレーキをかけることができる人が増えてくれば、そのうち、いじめている人は、自分がしていることは恰好のよくないことだとわかってくるはずですよ。

人権とは、「人間が生まれながらに持っているあたりまえの権利」です。

私たちに認められていない権利は、他人の権利を侵害する権利です。いかなる理由があっても、私たちには他人を傷つけたり、排除したりする権利はありません。

だからこそ「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」

「命を大切にすること」「みんなと仲良くすること」を心がけてもらいたいと思います。



# 12月は

## 人権感覚を磨こう旬間

「人権週間と言われても・・・。」

そうってしまう人も少なからずいるかもしれません。なぜなら私たちは普段、特に「人権」を意識して、「人権」ということで頭をいっぱいにして過ごしてはいないからです。

学校にも、差別・偏見やいじめ(いじり・からかいも含む)などさまざまな人権課題があります。だからこそみなさん1人ひとりの「人権感覚」を高めることが必要なわけですが・・・では、「人権感覚」とはということなのか考えてみましょう。なかなか答えは出ないかもしれません。

「人権感覚」を私なりにわかりやすく表現すると、「自分の大切さとともに他の人(※他の人とは自分の周りにいるすべての人のこと)の大切さを認めること」または、そのような態度・姿勢・心がけといったところでしょう。言葉にすると簡単ですが、実践することは難しいようにも思われます。

では、どうしたら「人権感覚」を磨くことができるでしょうか？

例えば、日々進歩し続ける情報化社会に生きる私たちの周りには、様々な情報が流れています。一部の情報に影響されて根拠のない理由やそれによって作り出された固定観念で物事を判断したり、差別や偏見、いじめにつながる行動やものの考え方をしたりしていることはないでしょうか？ そうならないために、日々の生活の中で、私たち1人ひとりがしっかり考え、情報を正しく冷静に判断できるようにしましょう。しっかり考え、正しく冷静に判断できる感覚が「人権感覚」といえるものの1つではないでしょうか。

このことを踏まえて、私たちが、「人権感覚」を磨いていくことで、相手を思いやる気持ちを持てるようになり、差別・偏見を見極め、いじめを防止する大きな礎になるのだと思います。

### 人権感覚チェックシート

- 先生やクラスメイトと気持ちよく挨拶ができる
- 間違いを気にせず、自分の考え(答え)を発表できる
- わからないところを教え合える雰囲気がある
- 質問に答えられない人や間違えた人を笑ったり、からかったりする。
- 先生によって授業態度が変わってしまう。
- 自分はわかっているから、または授業がおもしろくないから、他の人の邪魔をする。
- 1人である子のことを気にかけ、声をかけたりしている。
- 人の失敗を笑ったり、冷やかしたりしない。
- 人を傷つける言葉をつかわない。
- つい陰で悪口をいってしまう。
- 友だちが気にしていることや秘密にしていることを言いふらす。
- 困っていることや悩んでいることを相談できる人がいる。
- 担当の先生がいなくても、きちんと清掃をする。
- 時間帯など相手の状況を考えずにメッセージを送り、すぐ返信しないと怒る。
- SNSで友達やその家族などの悪口等を書き込む。
- 特定の人にいろいろな仕事を押し付けている。



※見てすぐわかると思いますが□の項目の☑が多い人は要注意です。すぐに行動を改めましょう！